

令和6年度第2回萩警察署協議会会議録

開催日時	令和6年10月23日（水） 午後2時30分から午後4時10分までの間	
開催場所	萩警察署3階 講堂	
出席者	委員	内田委員、椋木委員、溝部委員、白松委員、岩本委員、山影委員、大田委員、山本委員、榎谷委員、山口委員 計10名
	警察署	署長、副署長、主幹兼会計課長、警務課長、生活安全課長、地域第一兼第二課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計9名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 所管業務説明 2 少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進 	
<p>1 会長挨拶</p> <p>第一回協議会から4か月ぶりの開催となるが、萩警察署の皆さんには、引き続き市民町民目線に立ちながら私たちの安心安全を守り続けていただき、本当に感謝している。</p> <p>9月に開催された「わくわくキッズフェスタ」、10月に開催された「萩魚祭り」では、白バイやパトカーの展示、格好良い警察官の姿、明るい笑顔で対応する姿を拝見し、第1回の会議で出された意見をさっそく吸収していると感じた。今後のイベントにおいても広報活動に取り組むとともに、私たちの安全を守っていただければと思う。</p> <p>話題は変わるが、首都圏では今、連続強盗事件が毎日のように報道されている。その報道の中で、若者を悪の道へと誘い込む「闇バイト」という言葉が度々出てくる。山口県で闇バイトに関する事件が発生したというニュースを聞き、大変な状況になっていると感じたのは私だけではないと思う。本日の主な協議内容は、少年にスポットを当てたものとなっている。「萩市、阿武町の宝物といっても過言ではない若者たちを、加害者にも被害者にもならないようにするため私たちができることとは何か」について、協議会委員が自分のこととして捉え、様々な意見交換ができた</p>		

らよいと考えている。

2 署長挨拶

(省略)

3 所管業務説明（各課長）

(1) 生活安全関係

- 犯罪抑止対策上の指定犯罪等の認知状況

(2) 刑事関係

- 刑法犯認知・検挙状況
- 主な検挙事件

(3) 交通関係

- 交通事故発生状況
- 人身交通事故の主な特徴

4 前回諮問事項に対する提言への取組状況（警務課長）

(1) 採用試験での加算制度に関する提言

(2) 職場体験、イベントにおける広報活動の取組状況

5 諮問事項説明（生活安全課長）

「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」をパワーポイントにより説明

6 協議・検討

(委員)

9月29日開催の「わくわくキッズフェスタ」では、警察の方にも対応していただき感謝している。県警察本部人身安全・少年課の協力を得て、VRを幼児や小学校低学年に体験してもらった。タブレットを利用したクイズ形式で子供たちは大変喜んでおり、また保護者の方もVRを通じて犯罪を体験することができた。当日はスタッフ200名を含め、約1600名がイベントに参加している。交通課長には、「来年は中央公園の芝生で幼児等を集めて交通教室を開催すればよいのでは」と提案したところである。

私は薬物乱用の防止委員でもあり、イベントでは「薬は絶対ダメ」と記載されたリーフレットのほか、色々な種類のポスターや配布物を配って広報活動を行っている。先程の説明で闇バイトの話が出ていたが、去年の夏頃に生活安全課長と我々少年相談員3人が至誠館大学に行き、闇バイトに関するアンケートを行った。今はネット社会であり、中学生でも闇バイトに関する情報を目にするかもしれないので、ポスター等を中学や高校の掲示板に貼ると効果があるのではないかと。

11月15日、萩地域の少年相談員40人が集まって研修会を行う予定である。

その研修会の中で、まずは「何かあったときには警察に相談」を合言葉として皆に伝えたいと思っている。なお、昨日のニュースで、政府が「闇バイトに関する補正予算を組んで、何らかのアクションを起こす」などと発言していたので、注目していきたいと思っている。

(委員)

スクールガードリーダーとして、少年安全サポーターに同行して各小中学校の不審者対応訓練に参加している。学校の先生が工夫しながら訓練をしているが、マンネリ化を感じており、ブラインド的に行う小中学校も増えている。中には泣き出す子供もいるが、本当に起こったときにどうしたらいいのか、家に一人でいるときや登下校のときに「おかしい」と感じたら大きな声を出せるか、走って逃げられるか、近所に逃げ込めるか、警察に行けるかなど、どのように対応したら自分の命が守れるのかについて話をしている。子供たちは子供たちなりに、学校で学んだことをしっかり身につけてもらうとともに、家族との会話の中で「今日、こういうことがあったよ。こういう話があったよ。」と情報交換してほしいとお願いしている。

また、私は保護司もしているが、悪いことをした人を更生させていくことは当然として、被害を受けた方への対応が少し疎かになっているのではないかと感じている。犯罪者には救いの手が出ているのに、被害者への救いは手薄になっていて、非常に苦しい思いをしている方が多いのではないかと。

子供たちが被害者にも加害者にもならないために、本当にどうしたらよいのか皆で考えていかなければならない。最近、闇バイトの関係で「警察が保護します」とのテレビコマーシャルを目にするが、過去、警察によるこうしたコマーシャルはなかったように思う。時代が変わったというよりは、おかしい犯罪が増えたと言うべきであり、何とか対処していかなければならない。

(委員)

学校を中心に、「自分の身は自分で守る」という考え方をしてきたが、これは非常に大切なことだと思う。また、誤った道へ進んだ子供を正しい道へ更生させるだけでなく、被害者への手助けをどうするのが大きな課題だと思う。

(委員)

今は高校生でもスマホを持っているのが当たり前で、小学生から持っている子もいるようである。スマホさえあれば、あっという間に色々な犯罪と接点を持つようになっており、親が気付かないうちに子供が犯罪に加担していることもあるのではと思う。

P T Aや保護者に対しても、スマホの危険性について話していくことが非常に大事だと思う。小中学生に教えるのは早いかもしれないが、「犯罪に加担した場合はこのようになる」「被害者はこのような思いをする」などの話をすれば、子供たちが自ら考えられるようになるのではないかと。

(委員)

最近、闇バイトという言葉をよく耳にするが、それでは軽い印象を持たれるので、「闇バイトは重大犯罪なんです」とアピールした方がよいのではないかと。

(委員)

自転車の盗難被害が多いとのことであるが、自転車を盗むまでの過程があると思うので、その原因について深堀りし、一歩先に踏み込むことで、何か見えてくるのではないかと。

また、啓発活動について、色々なチラシ等を貼り出して素晴らしいと思うが、情報量が多すぎるとも思う。もう少し簡潔に短く、漫画などを使えば更に良い。

(委員)

新しい情報に親がついていけないというのが率直な感想である。最近、報道等で耳にする「秘匿性の高いSNS」についても知らなかったもので、掲示板で調べたりしてようやく理解したところである。難しいとは思いますが、親も一緒に勉強していかないとダメだと感じている。学校の参観日に、闇バイト等について親子で学ぶことができれば、犯罪の抑止につながるのではないかと。

(委員)

小中学校の子供たちはタブレットを家に持ち帰って様々な情報を得ており、タブレットでどのようなことをしているのか注意を払っていかねばならず、また家庭との連携も必要不可欠である。

(委員)

結局は親子関係に尽きると思うが、何かあれば警察に連絡できる体制、警察に連絡する前に相談できる体制が整えられれば、なお良いと思う。

VR動画の説明の中で映像を視聴させていただいたが、すごくインパクトがあった。VR動画は本当によくできているので、視聴しただけで「あ、こんなことをしちゃいけないな」という気になる。親が、自分の子供がどのようなアプリを入れているのかなど、より早い段階から関心を持つべきだと思う。

今回、光市の事件が注目されているが、「よく職務質問だけで捕まえられたな。山口県警察すごいな」と感じた。捕まえていなければ実際に強盗をしていたかもしれない、警らの大切さを感じた。昔は冬場になると町内会で火の用心のために回っていたが、こうした活動も必要ではないかと改めて思っている。各町内会で時間帯等を分担しながら取り組むことにより、不審者を発見できるかもしれない。

また、銀行員が声かけをして重大事件が解決したとテレビで報道されるが、コンビニ等でも店員が子供たちに声かけすると効果があるように思う。

(委員)

警らと同様で、とにかく声かけをすることが大切であり、3人程度で巡回するなど、そうした機会が持てる町内会になればよいと思う。

(委員)

家庭の中で話ができているのかと疑問に思うことがある。私の子供が小学生の頃は、食事の時間に学校での出来事等について話をしていたが、今では孫も高校生となり、家族で会話する時間はあまりない。子供は親子で話すよりも、子供同士、友達同士で話す方が多く、「何かあった時には警察」というのは、ハードルが高いのではないかと。

家の中でニュースを見ながら話すのも大切ではあるが、学校で習うことが一番頭に入ると思うので、警察が学校を回るなどして生徒と一緒に色々な話をするのと同時に、親子で体験していくことが良いのではないかと。先ほどの発言にもあったが、動画はインパクトが強いので、このような動画を学校の参観日に親子で視聴することができれば効果があると思う。

少年非行は、低年齢化していると思う。家庭内の関係性や金銭面の事情など色々あるが、やはり家庭環境が一番大切だと思う。次に学校関係や社会関係だと思うが、地域で見守っていくことも必要だと感じる。

(委員)

警察の説明を受けて、多くの対策はされていると感じた。特にVRについて、自分が遭遇したときにどうするのか子供に考えさせることが大切である。例えば仲の良い友達がそういうことになったとき、また友達に誘われて断りにくいときなど、そうした状況に陥った際にどうするのか発表させ、一人一人に考えを持たせるようにすることが大事だと思う。

今後の懸念として、子供の人数は減少しているのに犯罪の件数が増えているので、少年犯罪が常習化しないよう考えていかなければならない。また、学校の部活動が地域へ上手く移行できていないと聞いているが、そうすると子供たちが何かに打ち込んだり友達を作ったりする場が失われてしまうので、今後はそうした変化も考慮しながら対策を立てていかなければならない。

(委員)

小学校のPTA会長として、新入生の保護者との懇談会に参加した際、ある保護者から「私の頃は、という言葉が使いづらくなった。」との意見があった。学校では授業でデジタルデバイスを使い、家に帰ればスマートフォンなどでインターネットとつながれる環境下において、親の経験が全く子供にいかせない、いかしにくいとの話であった。

タブレットについて言うと、これまで5～6年生は自宅に持って帰ることもあったが、今年の2学期から1年生も持って帰る方針が変わり、家庭内でも低年齢からデジタルデバイスに触れる機会が増えることから、学校では注意喚起をしている。

記憶が曖昧であるが、九州の高校で多くの生徒が闇バイトのような事件に関わっていたと思う。高校生は「まさか罪になるとは思わなかった」と話しているようで、「これは罪になるんだ」と周知することが大事だと思う。

(委員)

部活動の話が出たが、地域移行は都会的な発想だと思う。都会では電車が5分ごとに行ったり来たりするので、多くの人がいる中で移動できると思うが、萩では車がなければとても移動できない。子供たちは親や知り合いの手を借りて移動しなければならないので、大変になると思う。いずれにしても、夜遅くに子供が一人になることだけは避けるべきである。

萩市では、12月の第2週に約2千人が走る城下町マラソンが開催されるので、交通課長を中心に交通対策をお願いしたい。また、年明けには萩市の駅伝大会、3

月には萩からスタートする読売駅伝もあるので、交通事故が無いようにご協力をお願いする。

(委員)

明木の交通死亡事故が発生した場所は、何年か前にも今回と同じように死亡事故が起きており、見通しが良いのになぜ事故が起きるのかと不思議に思う。今回の事故により5時間くらい通行止めをしたと新聞に出ていたが、旧道に車がたくさん流れ込むなどして、地区の方から不満などは出なかったか。

(交通課長)

事故の原因究明のためには物証が大切であり、警察本部からの応援を得て鑑識作業を行ったことも時間がかかった原因の一つと考えている。事故現場においては、明木地区の方々にも快く迂回していただき、感謝している。

(委員)

吉田町の通りでガードレールすれすれに幟旗が立っているので、交通事故が起きなければよいかと懸念している。

7 配付資料

- ・ 令和6年度第2回萩警察署協議会資料
- ・ 「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」

8 その他

令和6年第3回目の会議は、概ね1月中旬から2月上旬の開催予定とした。